

データベース構築促進及び技術開発に関する報告書

新聞記事・画像データベース構築

平成 10 年 3 月

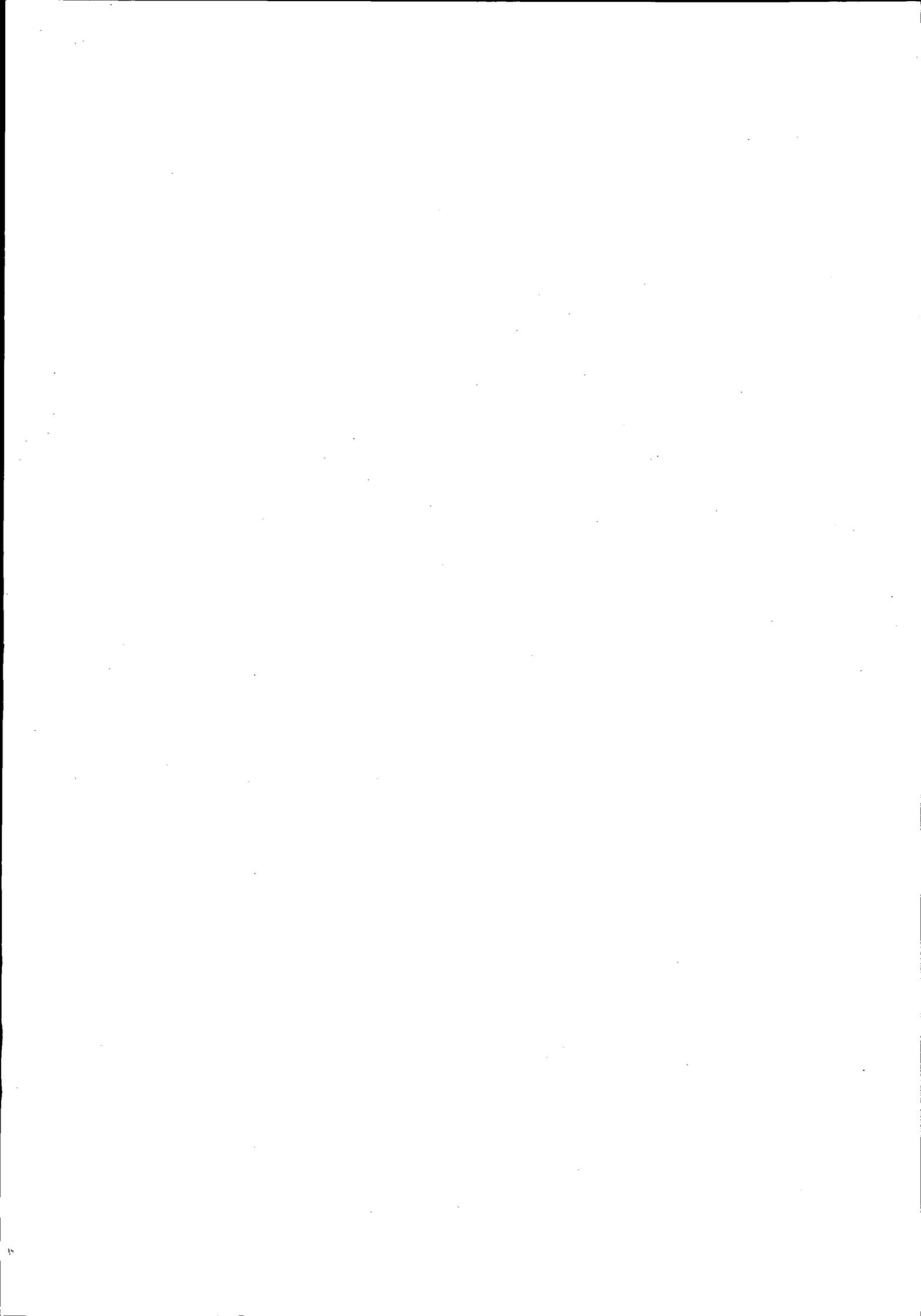
財団法人 データベース振興センター

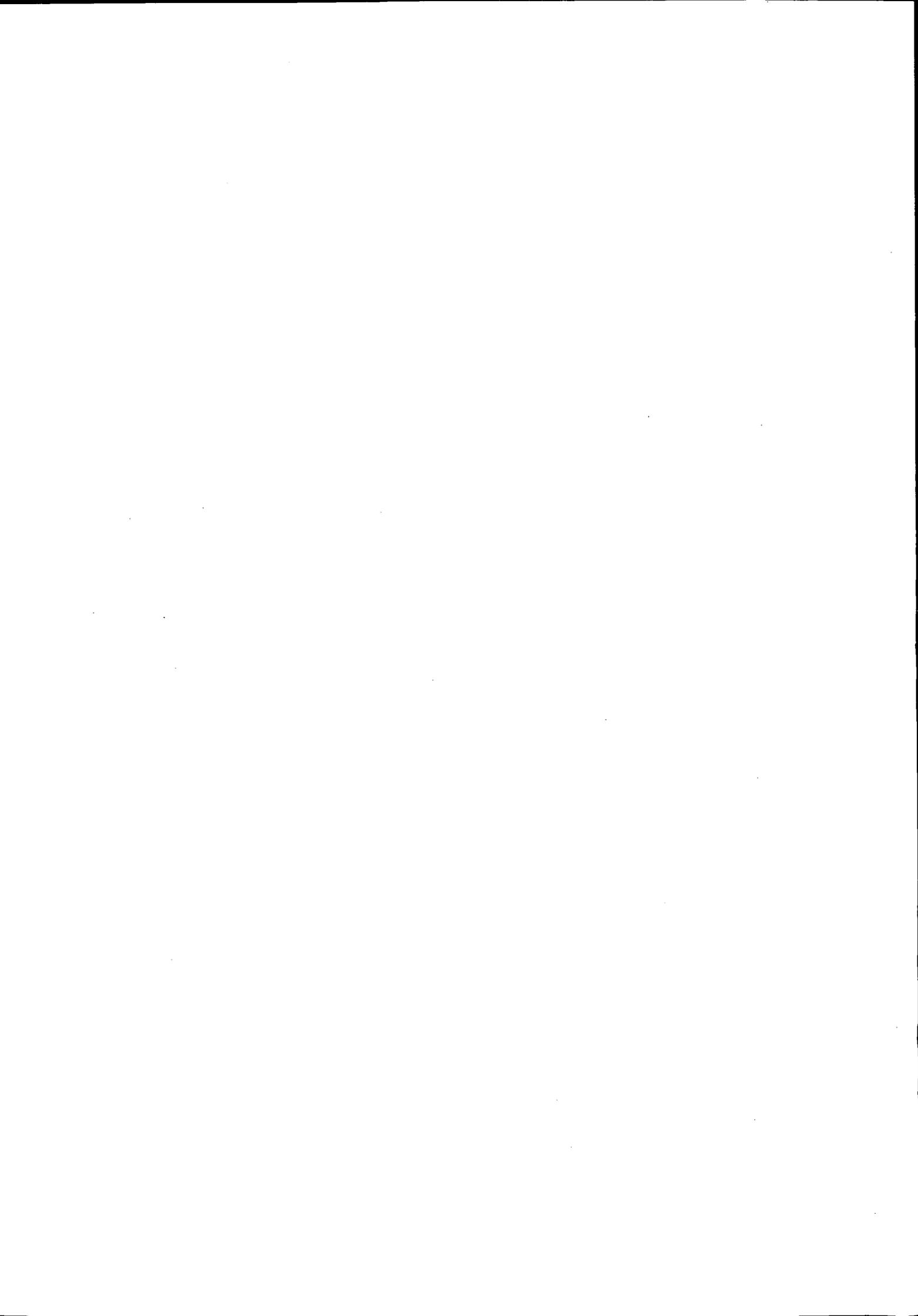
委託先 琉球新報社

KEIRIN



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものである。





序

データベースは、わが国の情報化の進展上、重要な役割を果たすものと期待されている。今後、データベースの普及により、わが国において健全な高度情報化社会の形成が期待される。さらに海外に対して提供可能なデータベースの整備は、国際的な情報化への貢献および自由な情報流通の確保の観点からも必要である。しかしながら、現在わが国で流通しているデータベースの中でわが国独自のものは1/3にすぎないのが現状であり、わが国データベースサービスひいてはバランスある情報産業の健全な発展を図るためには、わが国独自のデータベースの構築およびデータベース関連技術の研究開発を強力に促進し、データベースの拡充を図る必要がある。

このような要請に応えるため、(財)データベース振興センターでは日本自転車振興会から機械工業振興資金の交付を受けて、データベースの構築および技術開発について民間企業、団体等に対して委託事業を実施している。委託事業の内容は、社会的、経済的、国際的に重要で、また地域および産業の発展の促進に寄与すると考えられているデータベースの構築とデータベース作成の効率化、流通の促進、利用の円滑化・容易化などに関係したソフトウェア技術・ハードウェア技術である。

本事業の推進に当たって、当財団に学識経験者の方々に構成されるデータベース構築・技術開発促進委員会（委員長 東海大学教授 上條史彦氏）を設置している。

この「新聞記事・画像データベース構築」は平成9年度のデータベースの構築促進および技術開発促進事業として、当財団が琉球新報社に対して委託実施した課題の一つである。この成果が、データベースに興味をお持ちの方々や諸分野の皆様方のお役に立てば幸いである。

なお、平成9年度のデータベースの構築促進および技術開発促進事業で実施した課題は次表のとおりである。

平成10年3月

財団法人 データベース振興センター

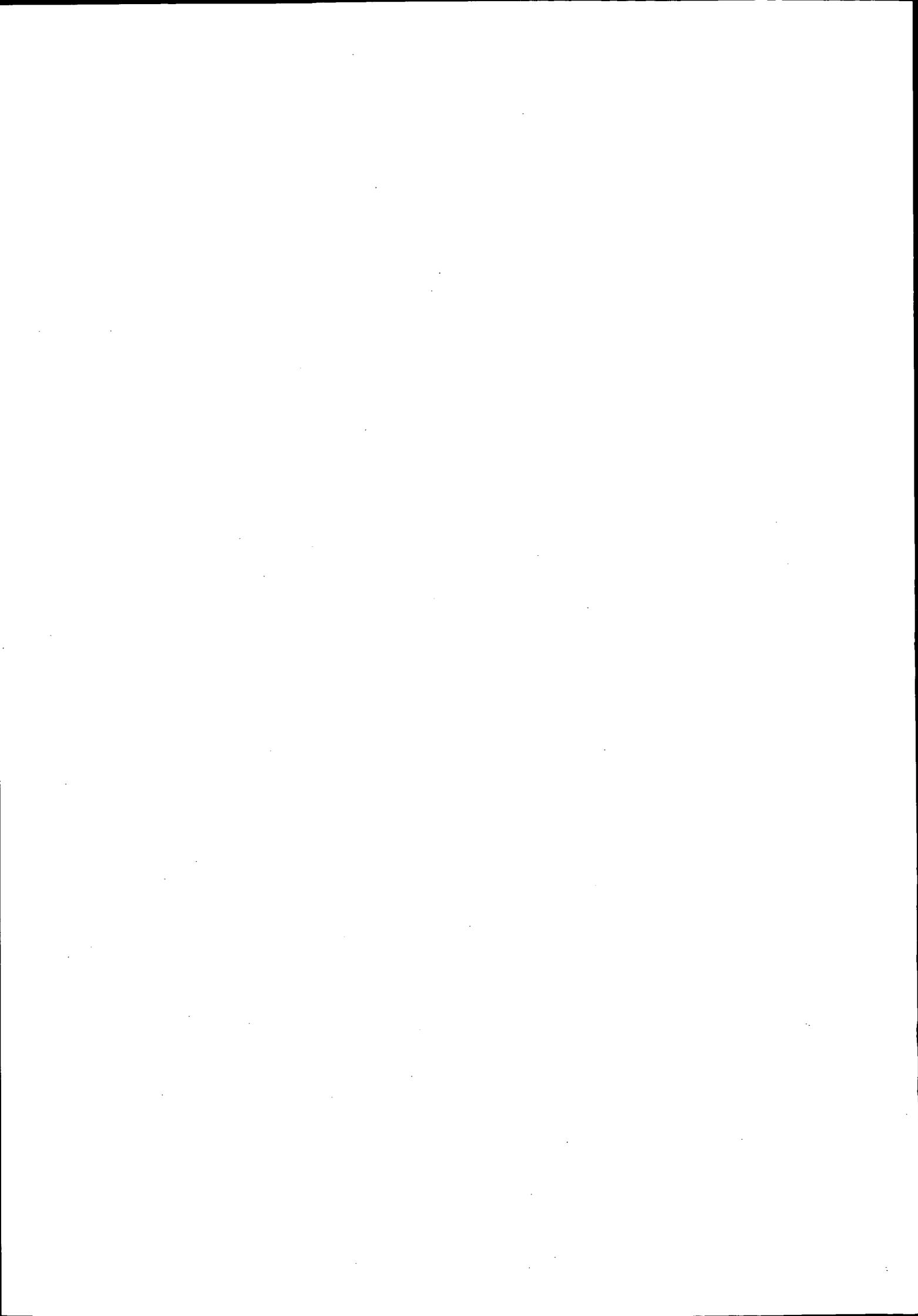
平成9年度 データベース構築・技術開発促進委託課題一覧

分野	課題名	企業名
社 会	1 インターネット型先進材料DB活用プログラムの開発	(財) 次世代金属・複合材料研究開発協会
	2 インターネットを利用したイベント関連情報に関するデータベースの構築	(社) 日本イベント産業振興協会
	3 ホームページ型地図付地域ガイドデータベースのプロトタイプ構築	(財) 地図情報センター
	4 高齢者在宅介護情報のデータベース構築	(株) フォワード
	5 筑波研究学園都市研究便覧インターネット対応化事業	(株) 筑波出版会
	6 建築行政指導要綱のHTMLデータベース構築	日本建築法令 (株)
	7 中小小売業のための商品仕入れ情報データベースプロトタイプ構築	(財) 店舗システム協会
地域活性化	8 新聞記事・画像データベース構築	琉球新報社
技 術	9 イメージファイリングの効率的活用を目指す書誌情報データベース検索技術の構築	(株) 会議録研究所
	10 やわらかい分散オブジェクトシステムに関する調査研究	(株) シネ・ジャーナルプロダクション

目 次

琉球新報記事・画像データベースの構築

1. 開発の概要		
1. 1 背景と目的	-----	1
1. 2 実施内容と成果	-----	1
2. 実施結果		
2. 1 システムの特徴	-----	2
2. 2 システム構成		
(1) ハード	-----	5
(2) ソフト	-----	7
2. 3 データの登録		
(1) 自動登録	-----	9
(2) 属性などの自動付与	-----	20
2. 4 データ検索と利用方法		
(1) 検索	-----	21
(2) 社内利用	-----	35
(3) 一般公開	-----	35
①著作権		
②犯罪報道記事とプライバシーの保護		
③訂正記事		
④外字の表記		
3. 実施体制	-----	36
4. スケジュール	-----	37
5. 構築のあゆみ	-----	38



琉球新報記事・画像データベースの構築

1. 開発の概要

1. 1 背景と目的

1995年9月の米兵による少女乱暴事件をきっかけに沖縄の米軍基地問題の解決が日米関係の重要な外交問題として浮上し、沖縄への国内外の注目が集まった。

沖縄県は2015年をめどに3期に分けて、米軍基地をなくしていく「基地返還アクションプログラム」と「国際都市形成構想」を打ち出している。

政府も、沖縄の経済振興策に力を入れ、「自由貿易地域」の整備拡充や「マルチメディアアイランド構想」の推進を図っている。

政治、経済的な面だけでなく、亜熱帯の風土を生かした観光や特異な歴史の中で生まれた空手、琉球舞踊、日本一の長寿県を支える食文化、そして安室奈美恵、SPEED、MAXなどを送り出した若者文化の風土もあり、内外から「沖縄情報」発信の要求が高まっている。

琉球新報社は、明治26年(1893年)の創刊以来、沖縄の近代史を県民と共に歩んできた。朝夕刊セットで約19万5000部を発行している。毎日の新聞情報をデータベースに蓄積し、インターネットのWWWを通して県内、県外、国外に発信することは、沖縄への関心を一層高め、ひいては沖縄の産業と文化の振興、さらに地域活性化につながるものと期待している。

1. 2 実施内容と成果

琉球新報記事・画像データベースは、平成10年2月から社内向けにテスト運用し、同年4月から外部の個人会員、法人会員に対し、アクセス・パスワードを発行し、テスト運用している。6カ月間の無料サービスの後、定額制の有料使用の契約に切り替える方針である。

アクセス回数や検索のヒット件数による課金方法は、システム導入が予算の都合上、平成11年度以降に延びたため、当面は行わず、定額料金による年間契約制にしている。

データベースのサービスは、朝夕刊の全記事と写真などの画像が対象になる。広告は含まれない。

沖縄県は多くの離島を抱えている。また全国でも有数の移民県であるため、県外や外国に多くの県系人が住んでいる。新聞が遅れて届く離島や県外、海外の読者も、新聞発行から6時間以内には、インターネットのWWWサイトを経由して琉球新報記事・画像データベースにアクセスし、記事を読むことができるようになった。

2. 実施結果

2. 1 システムの特徴

琉球新報記事・画像データベースの最大の特徴は、記事と画像が完全にリンクした統合型データベースであることだ。(図2-1)

本データベースは記事データベースと画像データベースで構成。記事検索から関連画像を参照することができる。また逆に、画像の検索後、画像とともに紙面掲載された記事を読むこともできる。

画像とテキストというこれまで困難さを伴った違うオブジェクトのリンク、管理が容易なシステムである。このことは、さまざまな素材を同時に管理、リンクができるマルチメディア型のデータベースを可能にした。

紙面イメージ、PDF、動画、音声などの収録、リンクも可能な拡張性を備えている。

特徴の二つ目は完全なイントラ・インターネット環境のシステムにある。

データの編集登録から検索・提供、修正更新のすべての作業はブラウザ画面で進められる。もちろんインターネットでの提供なので世界のどこからでもアクセスし利用することができる。社内も特別なソフトなしで標準的なWindows 95マシン等で利用できる。

登録、更新作業もブラウザ画面で行うことで、従来のクライアント・サーバー型で行っていた作業クライアントごとのソフト設定や作業ソフトのバージョンアップによる再インストール作業がない。検索系、作業系ともコスト低減につながっている。

さらに三つ目の特徴はテルネット、FTPなど使ったSEによる遠隔メンテナンスが容易なことだ。サーバは沖縄にありながら、鹿児島(株式会社ケイアイ)、東京(株式会社理経)、長野(MKCスタット)、沖縄(株式会社BeeP)からSEが保守管理をする体制がとれる。

特徴の四つ目は社内利用用、社外提供用、記事データベース、画像データベースとしてニーズや目的別に複数の提供形態がとれることにある。記事執筆や紙面製作に利用する社内用はページ、版、ニュース源、備考など細かい検索を可能にした画面にした。これに対し社外提供用画面は日付、見出し、本文などに限定。面名での検索も社内用よりもおおざっぱな項目にし、単純化している。

また、画像データベースの場合、社外提供用ではサムネイルの表示にとどめている。社内用は実画像データもダウンロードできるようになっており、新聞紙面での再利用に威力を発揮している。

特徴の五つ目はデータ登録を極力自動化したことにある。本データベースは、琉球新報社の新聞制作システム(CTS)更新時期に合わせて、構築を開始したが、CTS導入段階からCTS構築を担当している日本電気(NEC)側には、データベースを意識したCTS構築を要請。データベース側でのデータ編集加工の自動化を目指した。

しかし、CTS側のシステム構築作業が予定より遅れ、CTSの稼働スケジュールに間に合わせるために、データベース側への記事の素材をグループ化する情報や自社記事と通信社記事とを区別する情報などをCTSで付与することはできなくなった。

そこで、窮余の策として、これらの情報はさらに上流部の記事出稿段階や整理部で付加する方法を取った。

データベース側はCTSを経由して送られてくるこれらの情報を元に自動的にデータを加工、登録する。いまのところ完全自動登録とまではいかないが、今後、CTS側と調整し、完全自動登録を目指す。

安価に構築できたことも本システムの特徴といえる。ハード的にはサーバーなど最小限の構成でありながら、記事と実画像を5年以上保存可能、障害時の普及の容易性と安定稼働を確保した。高速検索とインターネットなど最新メディアでの広範な提供形態をとれた。

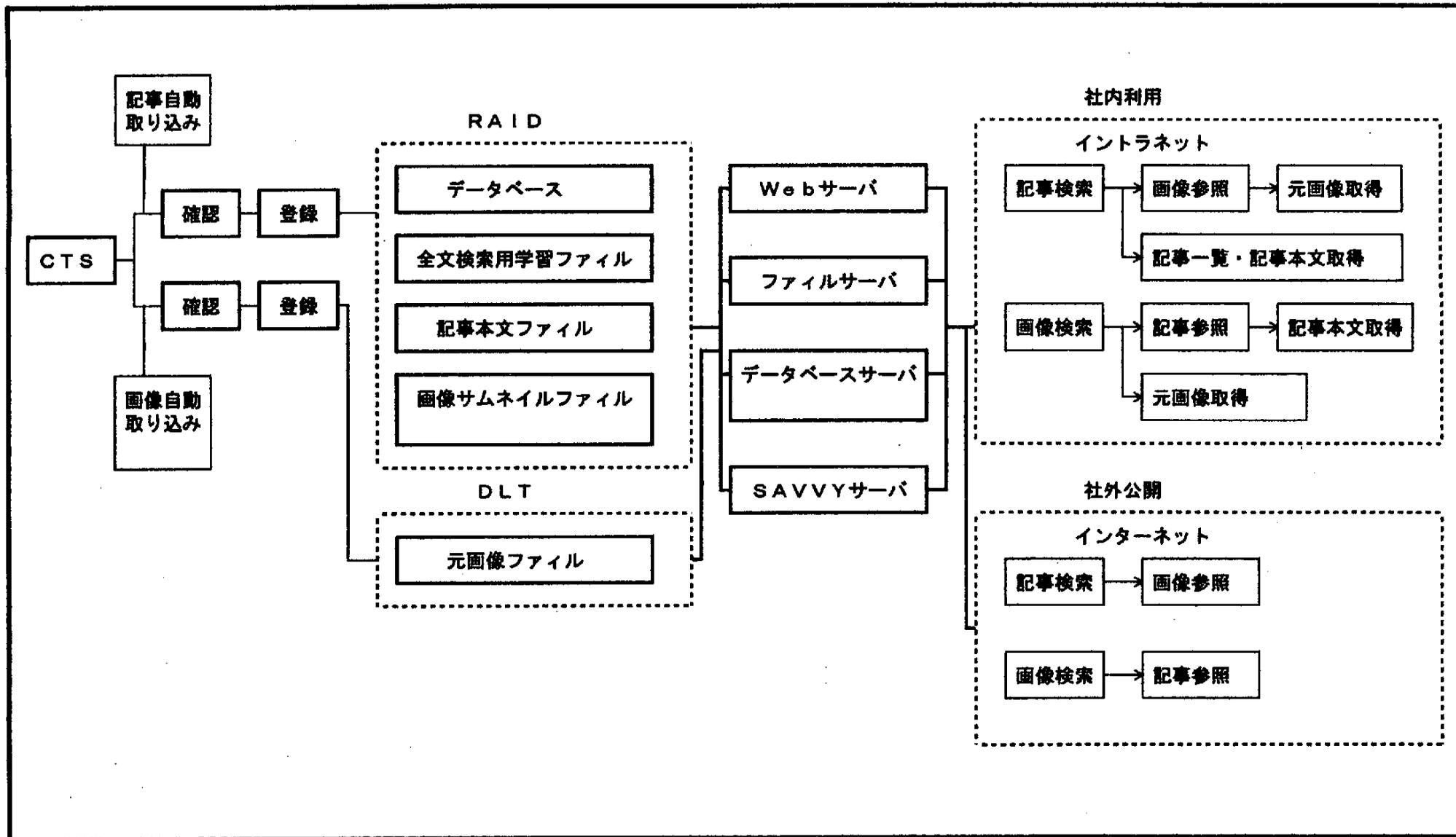


図 2-1 システム全体図

2. 2 システム構成

(1) ハード

SUN互換機のUNIXサーバー (Ultra2-SPARC) 3台を導入。1号機はファイル収集サーバーとバックアップ装置 (DLT) 管理サーバーとして2号機はデータベース (ORACLE) サーバーと全文検索 (SAVVY) サーバーWebサーバーとして使用。一台は予備機。(図2-2)

サーバーの安定稼働とDisk障害に対処するため90ギガバイトのRAID Disk Array装置を置いている。データのバックアップと画像実データの保存装置として1テラバイトのDLTを導入した。

データの登録・更新作業はクライアントマシンはWindowsパソコン2台で行う。

データの検索・閲覧は社内LANに接続されたWindowsパソコン、社外はインターネット接続環境ならどのパソコンでも可能。

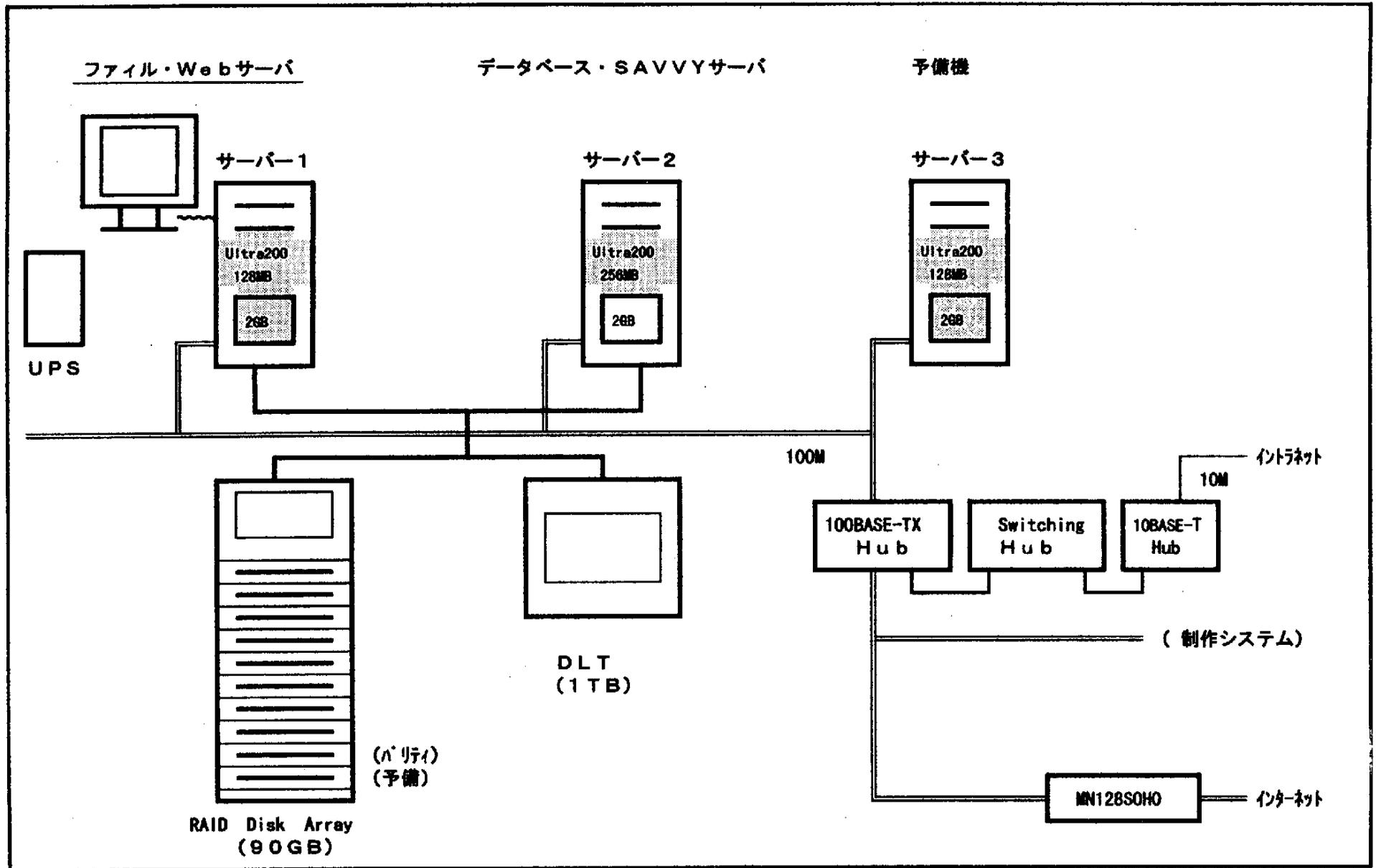


図2-2 機器構成図

(2) ソフト

データベースエンジンはオラクル 7.3 (日本オラクル) で、全文検索のエンジンは SAVVY/TRS (日軽情報システム社)。オラクルとサビーはミドルウェアのハイパーメディア for オラクル-サビーが連結している。(図 2-3)

新聞制作システムから送られてきた記事、画像データをオラクルに登録。その際に検索用のテキストはすべて検索エンジンのサビーに収録、リンク情報を付与する。

画像はデータベースにリンク情報を付加した上でサムネイルと実画像をバックアップ装置 (DLT) などに收容する。

利用者はブラウザを使って記事を検索。Webサーバーでハイパーメディア for オラクル-サビーがデータベースとサビーの検索を実行。その結果を J A V A スクリプトを使って利用者側に表示する

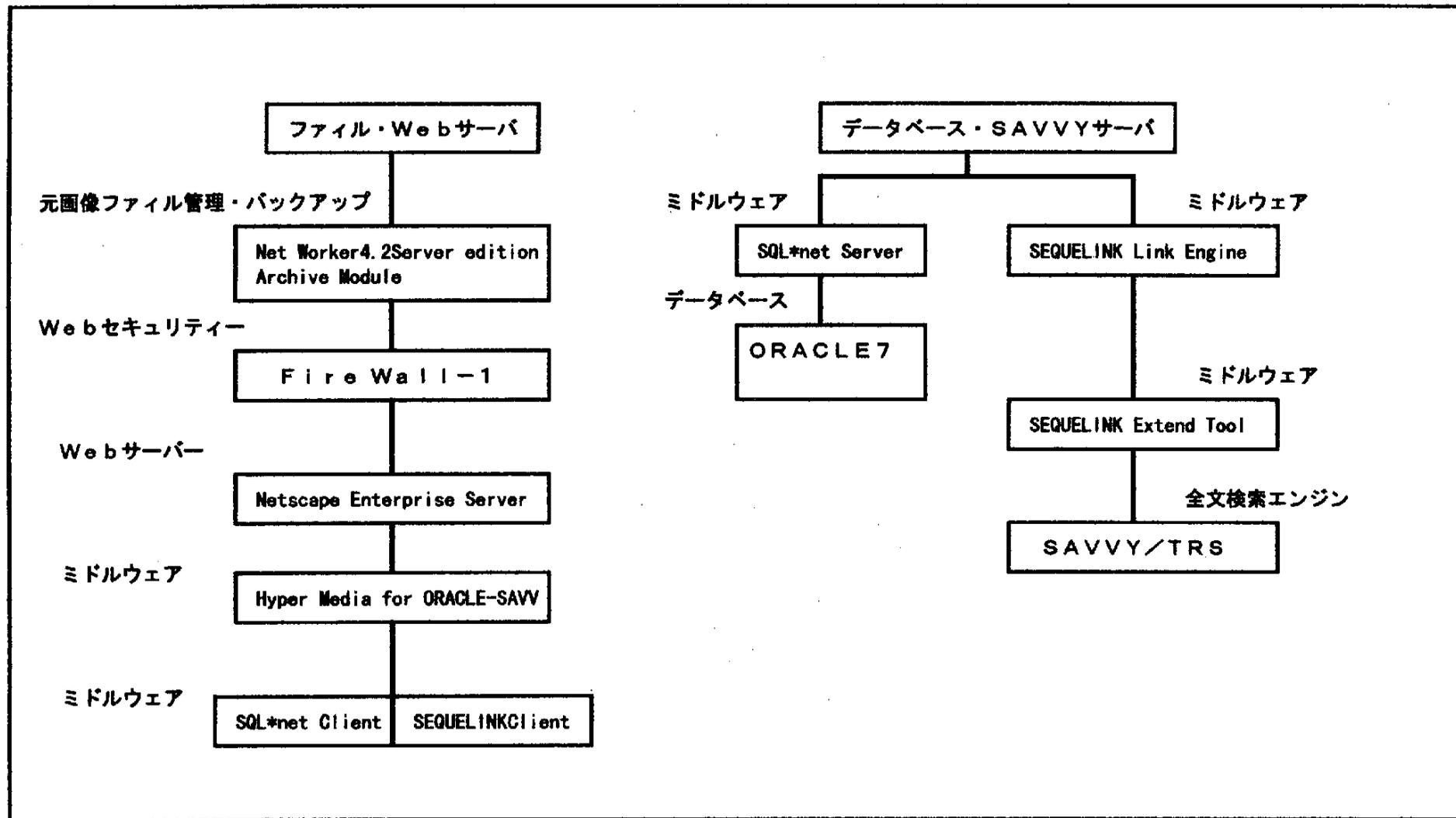


図 2-3 ソフトウェア構成図

2. 3 データの登録

琉球新報統合データベースはデータ登録部分を自動化、簡素化することで、データベース運営の人手を最小限に抑えることを目標としている。

(1) 自動登録

琉球新報統合データベースはCTS（紙面製作システム＝NEC）から送られてくるデータを記事データベースと写真データベースに登録する。

CTS側は記事管理サーバーから見出し、記事本文、写真説明、写真掲載情報がテキストファイルとして送付、画像蓄積サーバーからは掲載写真の画像データファイルを送付する。それぞれのファイルごとに紙面情報（掲載日付、朝・夕刊、面、ページ、版）と素材の区分情報（見出し、本文など）、仮見出し情報が添付されている。

データベース側はこれら情報を基に素材の記事ごとにグループ化し通番を付与。見出しと本文は記事データベース登録する。（図2-4／図2-7）写真説明と写真掲載情報は画像データとさらにグループ化。写真通番を付与し写真データベースに登録する。（図2-8／図2-11）写真と記事は写真掲載情報に付与された記事通番でリンクされる。

人手をかけず登録作業を自動化することを目指しているが、それは運用コストの低減のみならず、インターネットでより早く記事情報を提供する必要があるからだ。

グループ化に必要な紙面情報と区分情報は紙面制作中にCTSで自動的に付与されるが、仮見出し情報は出稿記者、整理部記者が付与しなければならない。出稿記者が記事本文の前に入れる仮見出し情報を基に、整理部記者は見出しと写真に記事と同一の仮見出しを付与する。

これによりデータベース側で記事の自動グループ化が可能となり、人手はイレギュラー処理だけとなる。（図2-12／図2-13）これは紙面制作現場に余分な負担をかけることになり、データベースに対する理解と協力が不可欠となる。

記事番号

掲載日付 から

朝・夕刊

版

社：掲載面

公：掲載面

記事種

ニュース課

著作権

本文公開

人物区分

掲載頁

見出し AND

AND

本文 AND

AND

AND

写真枚数

掲載枚数

〇日備考 AND

公開備考 AND

記事広告

他メディア

同欄目検索 ON OFF

図 2-4 CTSデータ記事読み出し画面

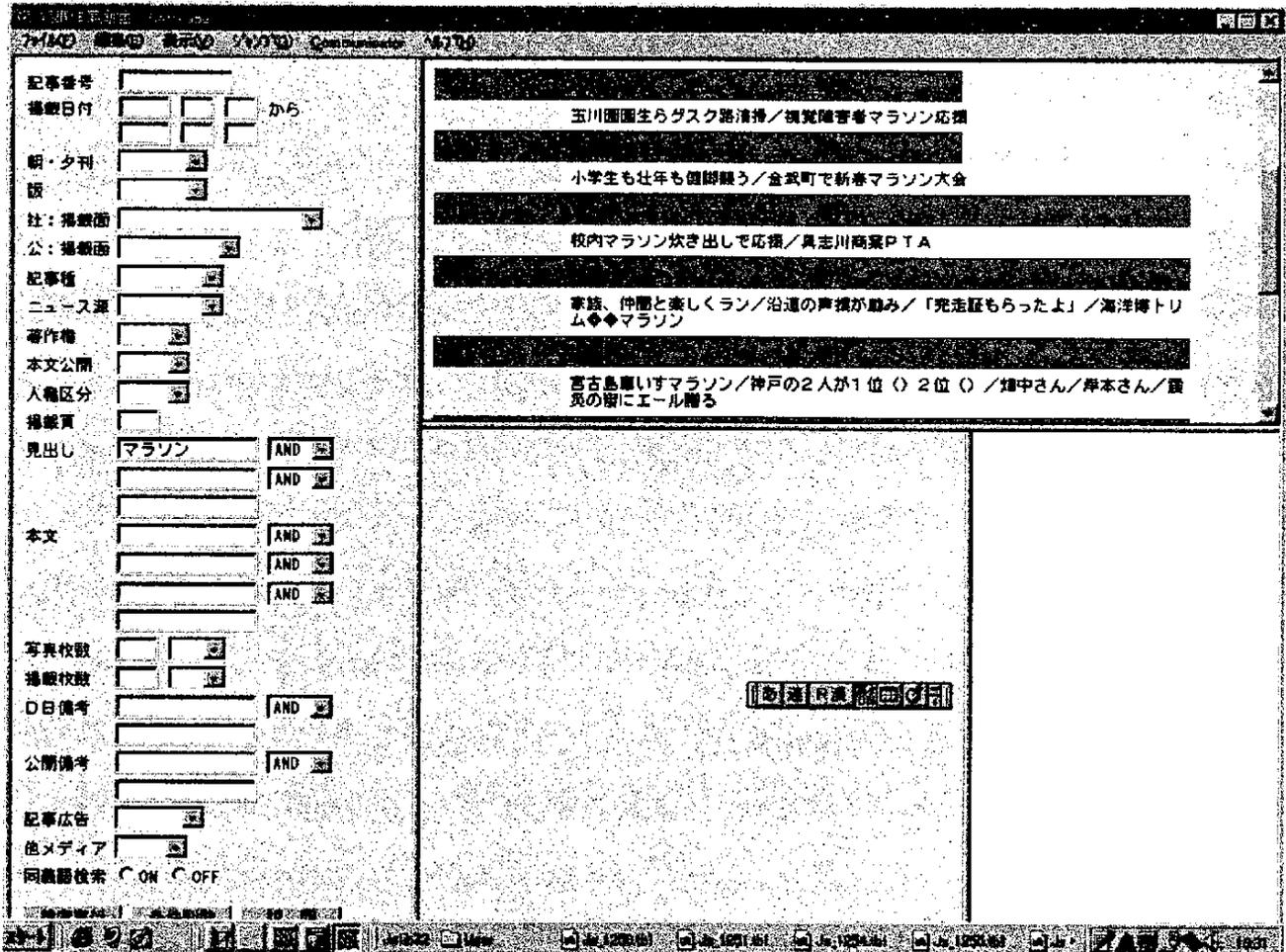


図 2-5 CTSデータ記事リスト画面

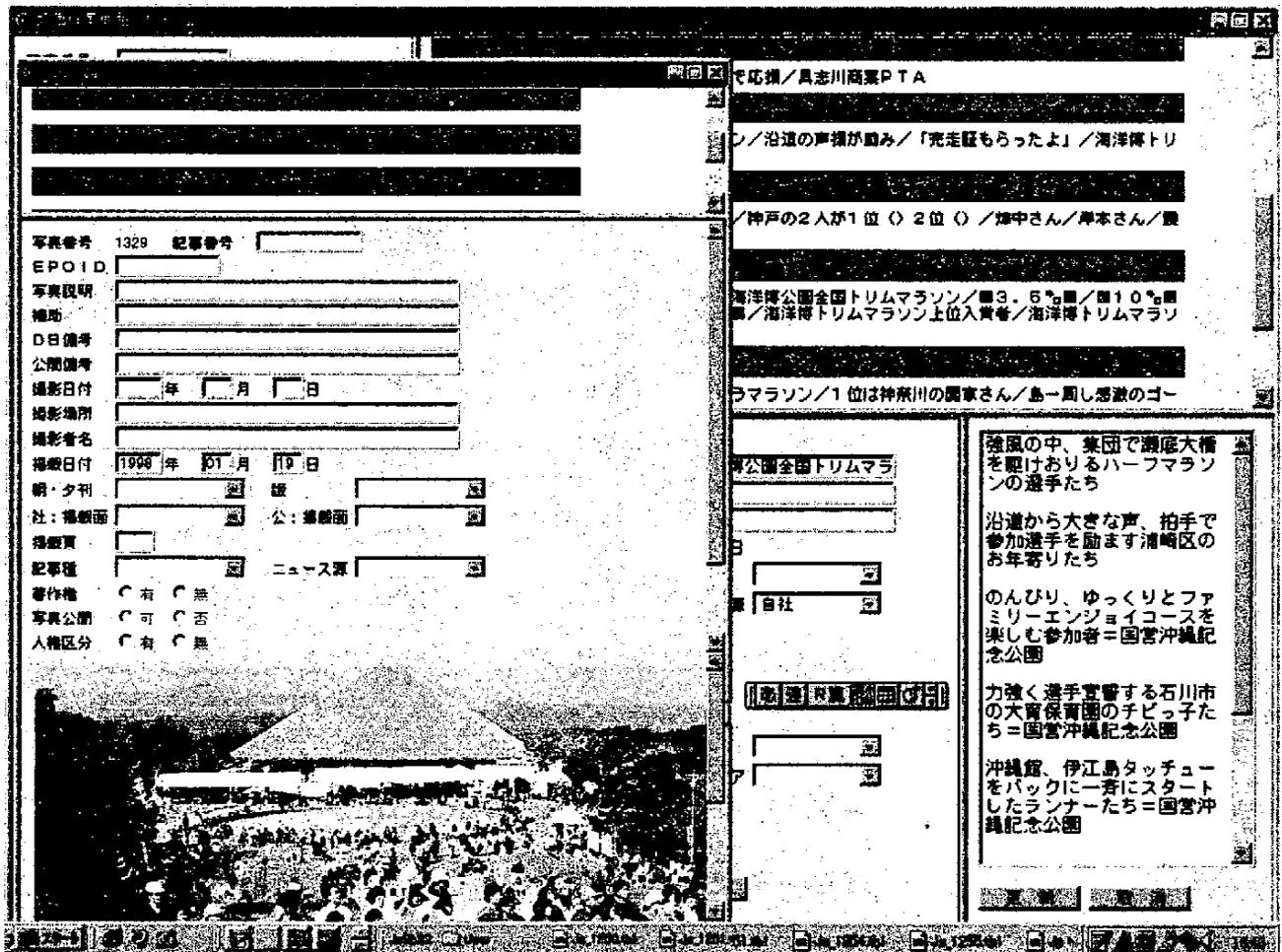


図2-7 CTSデータ関連画像画面

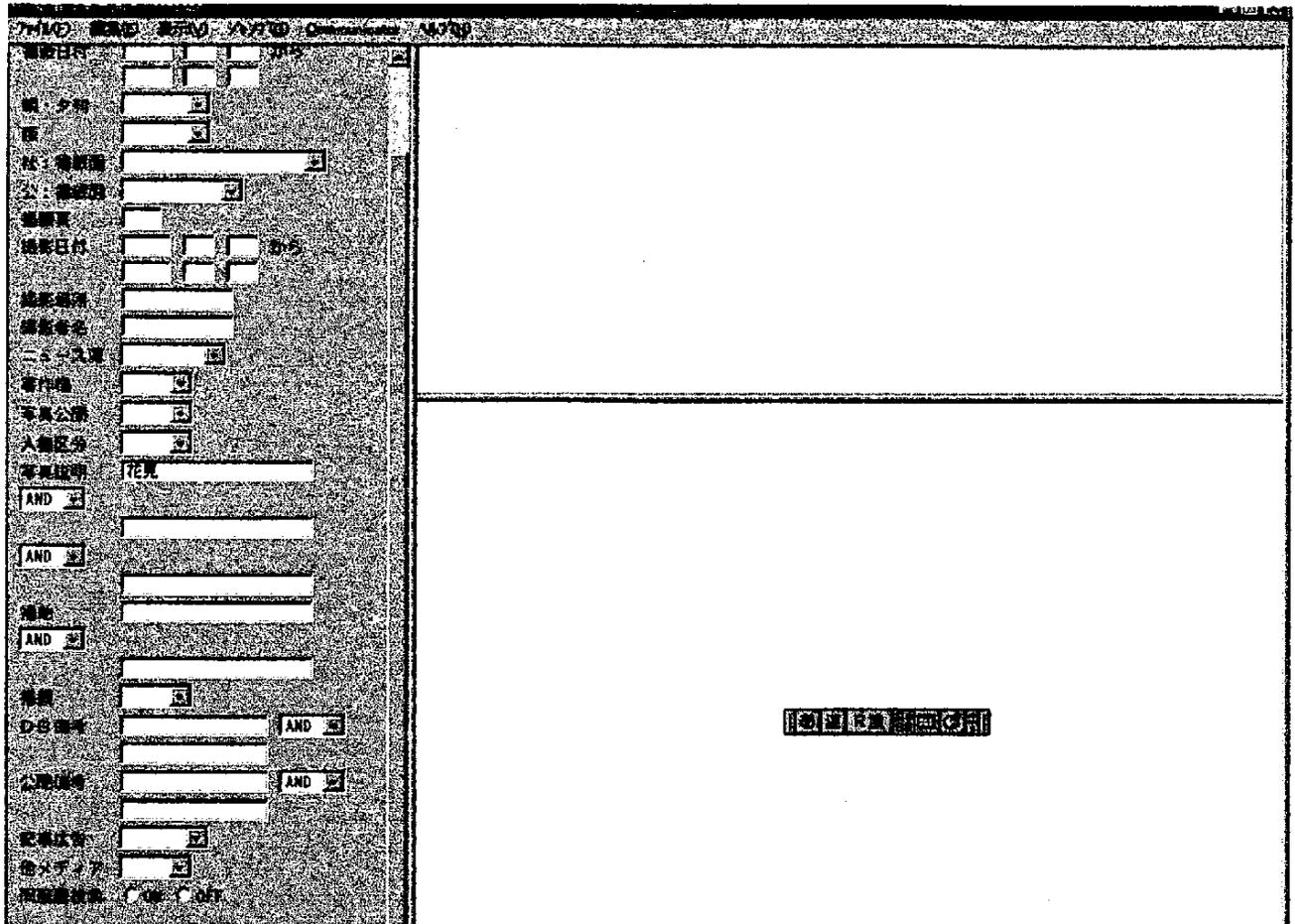


図 2 - 8 CTSデータ写真読み出し画面

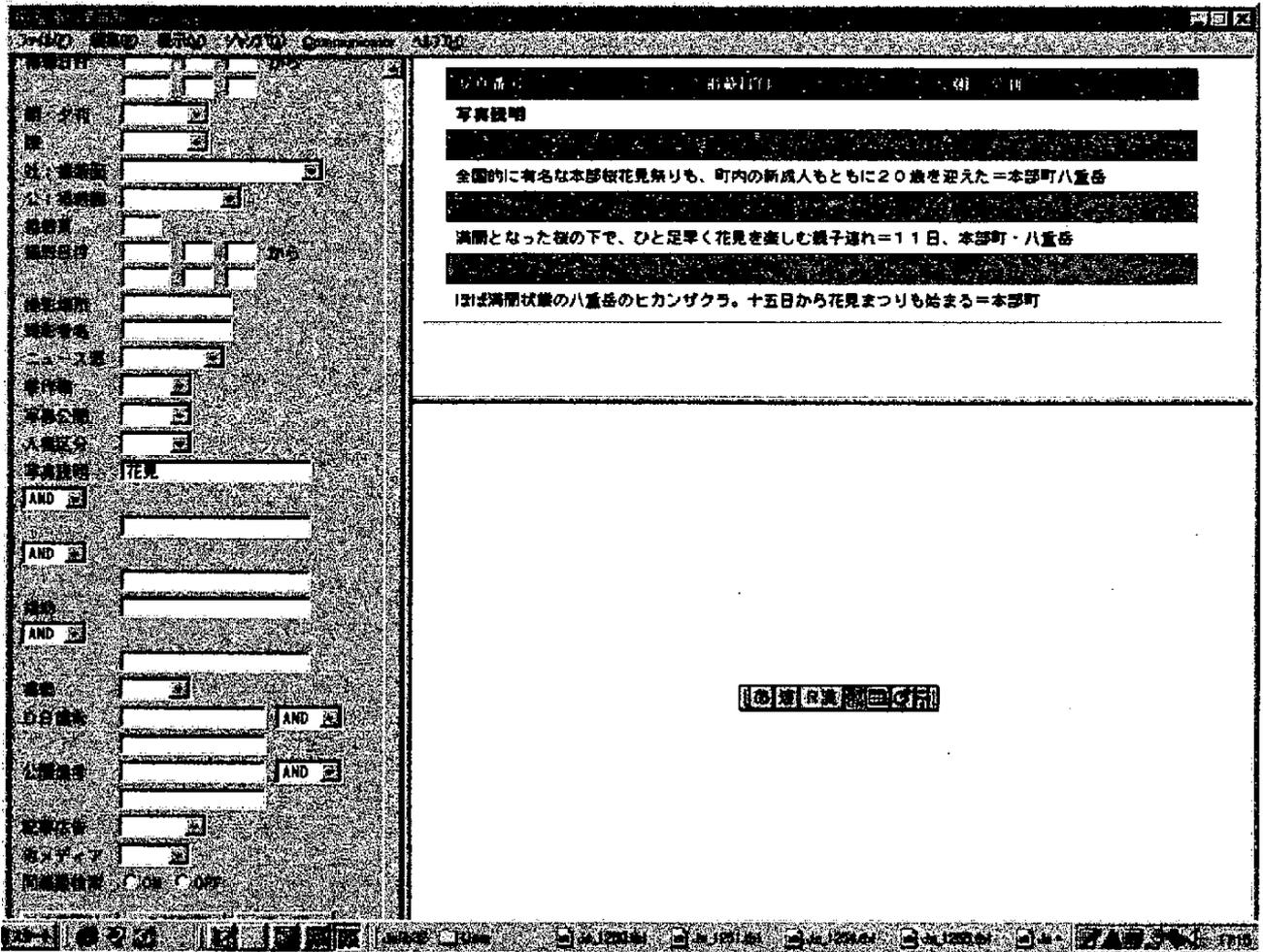


図 2-9 CTSデータ写真リスト画面

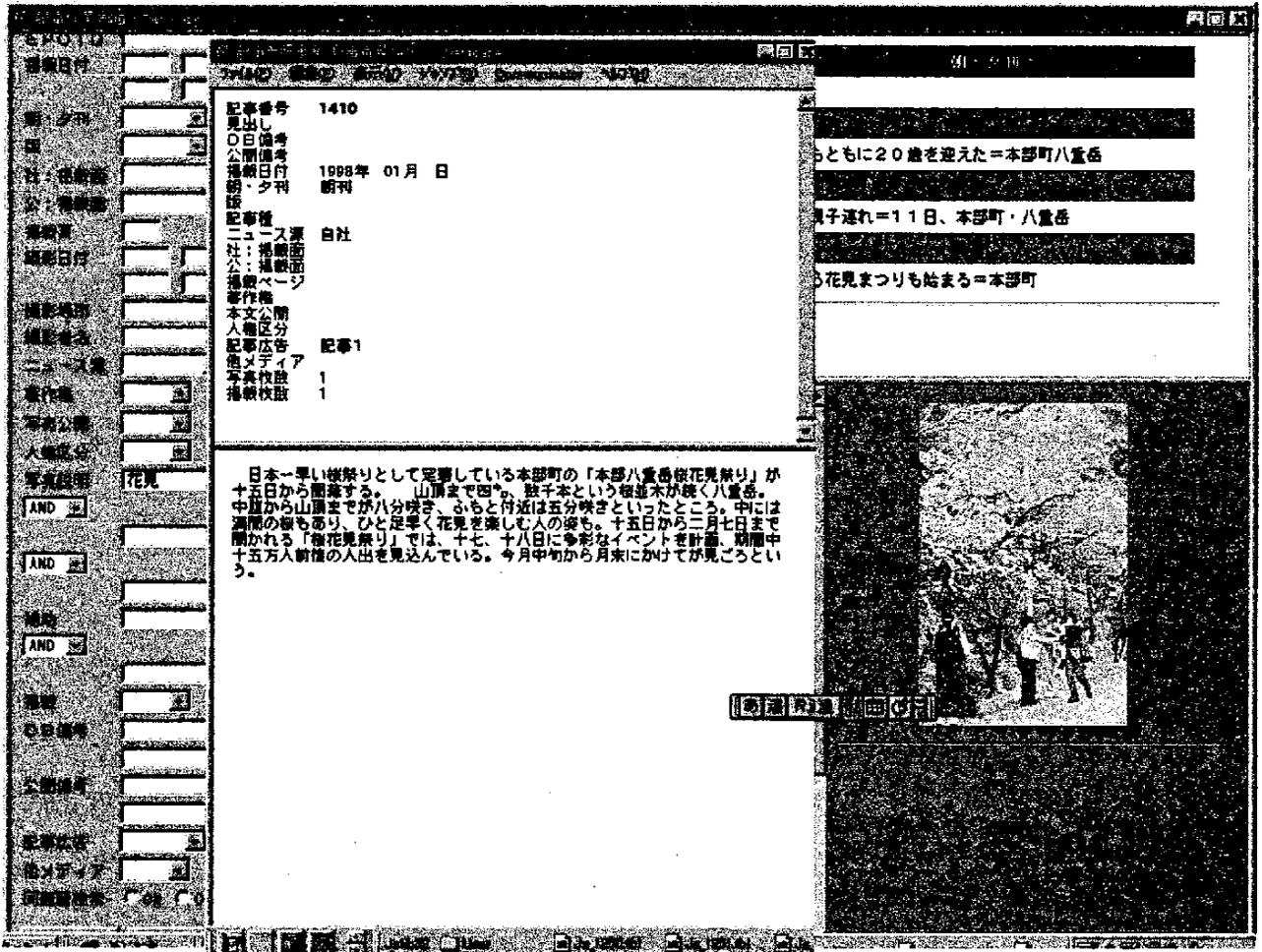


図2-11 CTSデータ関連記事画面



図2-12 CTSデータ検索画面

CTSDデータ修正画面

1998/02/02 [夕刊] [修正実行]

DT番号 : 200 GP番号 : 137

掲載日付 : 1998/02/02 *名 : 夕刊

仮見出し : 「疑念はいずれ消える」

区分 : 本文 DT順番 : []

掲載版 : [] 掲載面 : 経1

掲載頁 : []

ニュース源 : 共同通信 記号増 []

記事広告 : [] 他メディア : []

公開フラグ 人権

著作権 写真

修正

【ワシントン1日共同】クリントン米大統領による不倫もみ消し疑念の渦中にあるモニカ・ルインスキさんのギンズバーグ弁護士は1日、米5大テレビ・ネットのニュース番組に次々と出演し「疑念はいずれ消え去り、大統領はその座にとどまることになるだろう」と語った＝【G】写真。【改行】ルインスキさんへの免責を見返りとする捜査協力をめぐるスター特別検察官との交渉については「完全に打ち切られたわけではないが、今は何も動いていない」と指摘。交渉が暗礁に乗り上げていることを再確認した。【改行】半面、一転してホワイトハウ

図2-13 CTSDデータ修正画面

(2) 属性などの自動付与

全文検索はSAVVYエンジンのため、検索用語のインデックスを作成する必要はない。

また、記事の分類は分類作業に習熟した要員確保が不可欠なため排除した。ただし、死亡記事や人事など明確に記事の性格付けが可能で、検索頻度が高いものについては記事種項目を設け、最小限の分類を行う。

記事種は記事出稿デスクが記事の仮見出し部分に付与するので、データベース側での分類作業は一切行わない。

このほか、記事ごとに著作権の有無、ニュースの提供元（通信社など）、事件記事の提供制限など属性を付与しなければならないが、これらもすべてあらかじめ出稿デスクが記事の仮見出し部分に入力するので、データベース側の人手による作業はない。

2. 4 データ検索と利用方法

(1) 検索

記事は日付、朝・夕刊、面、記事種の属性と、見出し、本文の全文自由語検索でほしい記事を検索。(図2-15) ヒットした記事はリスト表示される。(図2-16) リストの日付部分をクリックすると、記事詳細画面が表示される。(図2-17) 写真参照をクリックすると掲載写真が表示される。(図2-18)

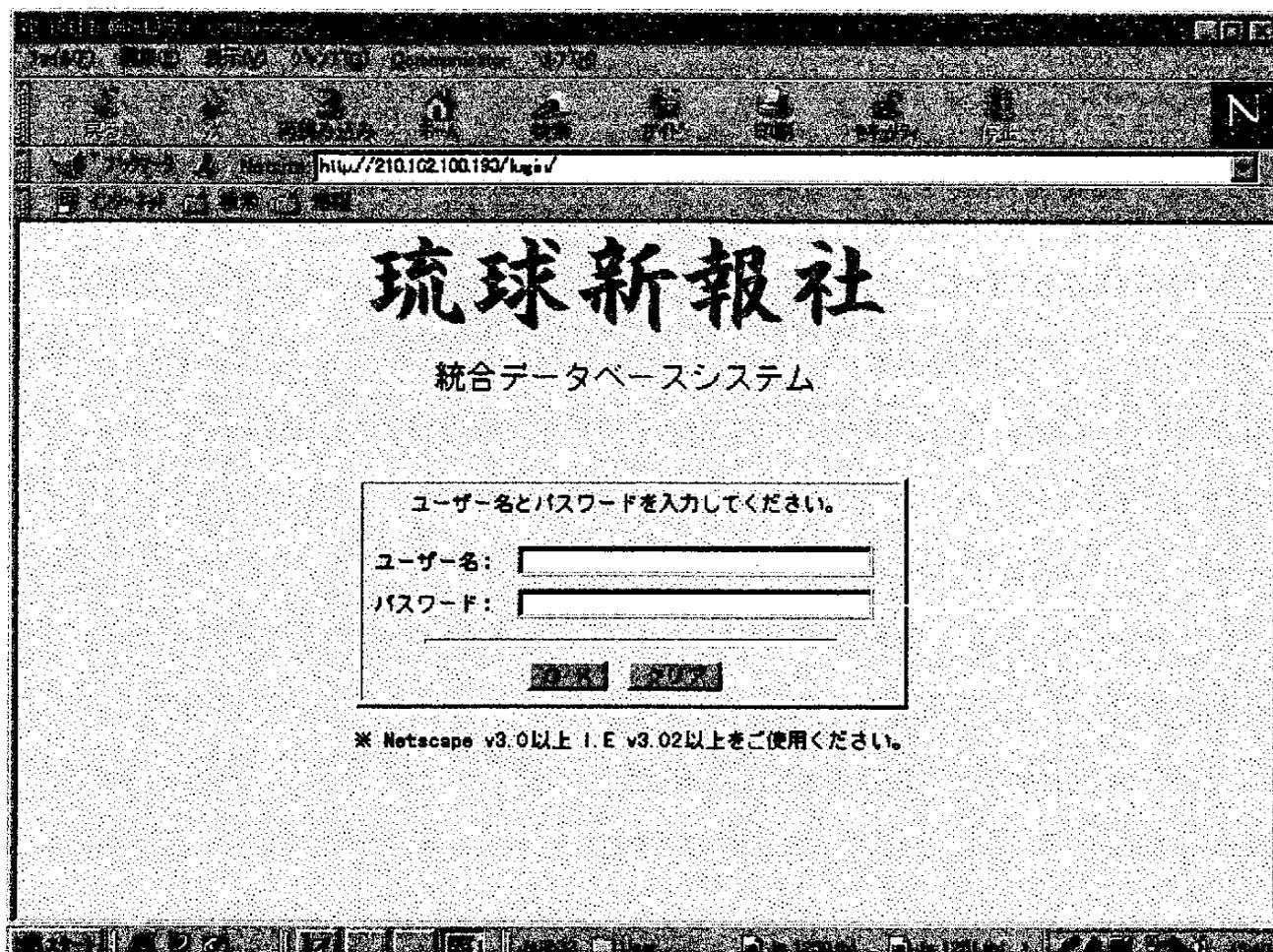


図2-14 ログイン画面

琉球新報 社内用 記事検索リスト

記事ID	発行日	発行頻度	記事内容	件数
3562	1998/02/12	夕刊	体や心のひずみ心地よい刺激に/いいストレスを増やす	1
2873	1998/01/19	朝刊	家族、仲間と楽しくラン/沿道の声援が励み/「完走証もらったよ」/海洋博トリム◆◆マラソン	1
2963	1998/01/19	朝刊	ビタリ賞ビタリ賞ビタリ賞/嬉しいですビタリ賞/母の後押し受け平良さん/海洋博トリム	2
2839	1998/01/19	朝刊	陽春の中思い思いに/海洋博公園全国トリムマラソン/■3.5%■/■10%■/■5%■/■ハーフ■/海洋博トリムマラソン上位入賞者/海洋博トリムマラソン上位入賞者	12
2736	1998/01/19	朝刊	園児ら元気に選手宣誓/海洋博トリム/本部路を快走6600人	1
2716	1998/01/18	朝刊	宮古島100%ウルトラマラソン/1位は神奈川の関家さん/島一周し感激のゴール	1
2683	1998/01/18	朝刊	もちつきで親睦深める/孫ヶ丘自治会	1
2321	1998/01/17	朝刊	有森さんが米国人と結婚/シドニー挑戦も決断	2
2370	1998/01/17	夕刊	県内初「100%ウルトラマラソン」/時差気にせず宮古島一周/けさ上野村スタート	1
1970	1998/01/16	朝刊	本書まで1ヵ月/98おきなわマラソン/感動目指し熱い走り/来月16日号誌	2

12 件 (1/2ページ)

法に
 CSV

図2-16 リスト画面

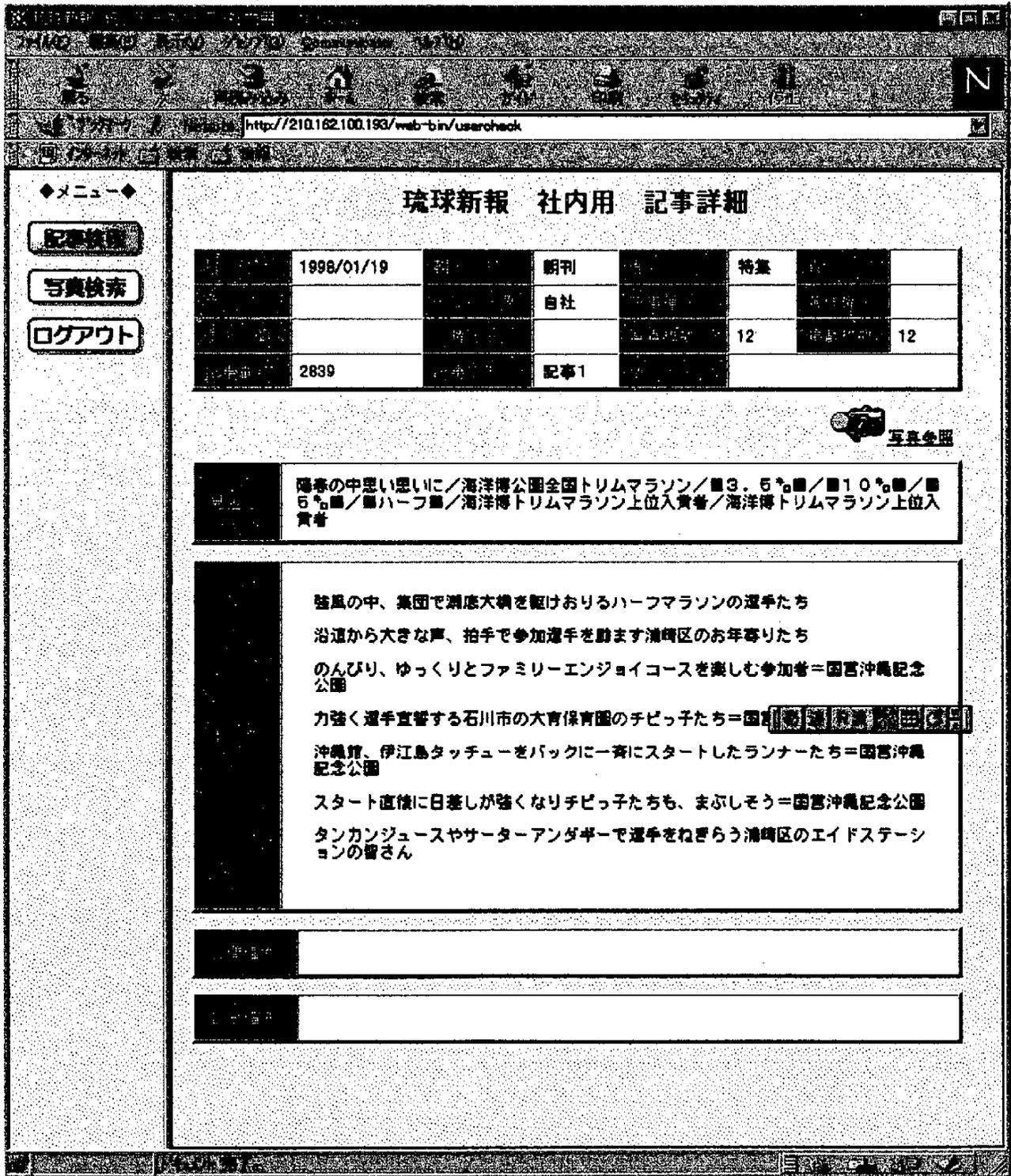


図 2 - 1 7 記事詳細画面

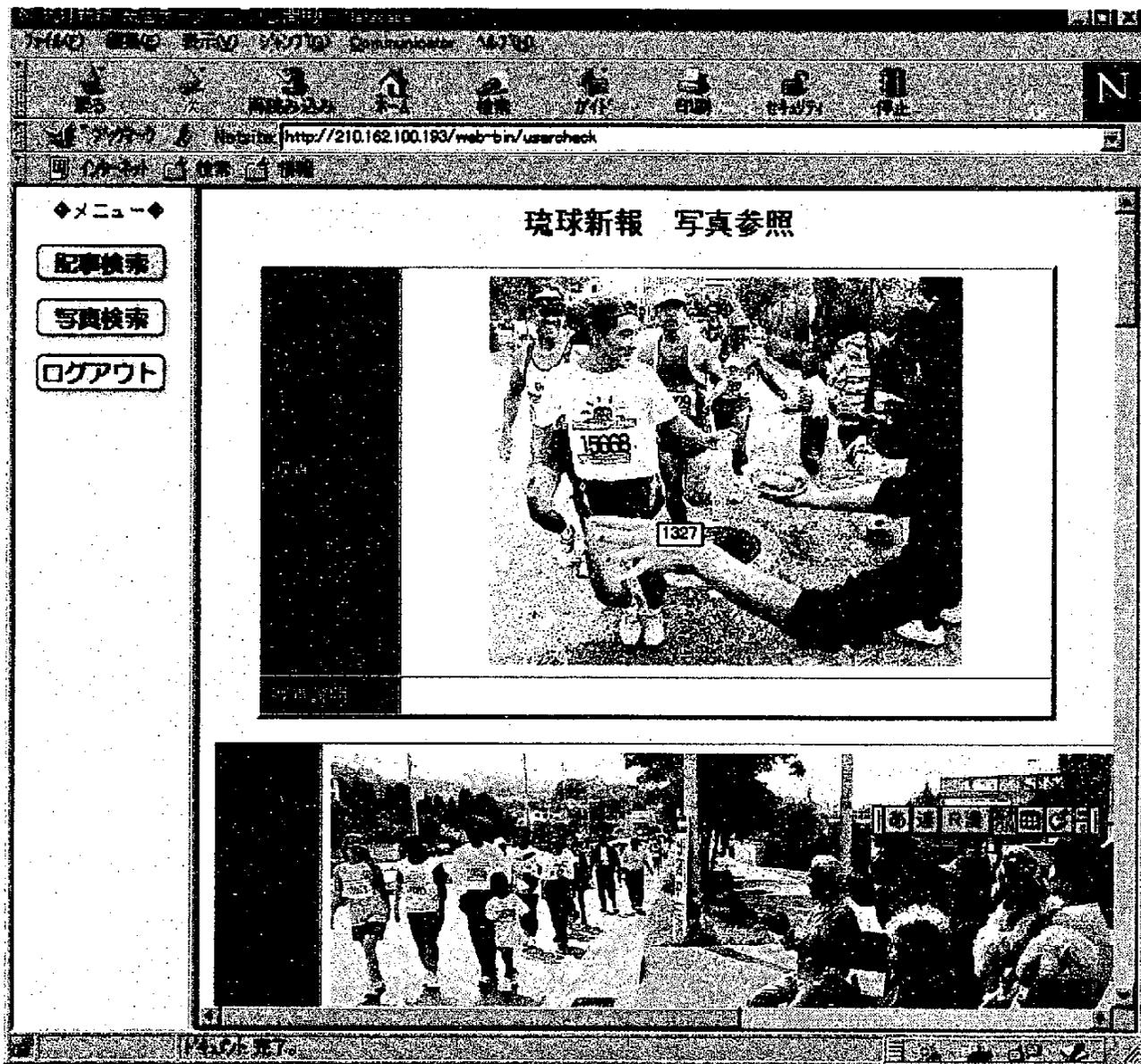


図 2 - 1 8 写真画面

写真の場合は日付、朝・夕刊、面、記事種の属性と写真説明、補助説明（撮影場所など）で検索。（図 2-19）ヒットした写真リストがリスト表示される。（図 2-20）

リストの日付部分をクリックすると画像を表示。（図 2-21）記事参照をクリックする関連記事を表示させることができる。（図 2-22）

ブラウザのアドレスバー: http://210.162.100.193/web-bin/usercheck

琉球新報 社内用 写真検索リスト

記事ID	発行日	発行部	地域	記事内容
1322	1998/01/19	朝刊	地1	信元賞花形号に見事、逆転し敢闘賞に決まった賞花形。
1051	1998/01/16	朝刊	総1	全国的に有名な本部桜花見祭りも、町内の新成人もともに20歳を迎えた＝本部町八重岳
997	1998/01/15	朝刊	経2	新品種を前に会見する上間組合長（左から2人目）ら＝浦添市、県花卉園芸農業協業センター
1014	1998/01/15	朝刊	地1	比謝川の流れをふさぎ、はんらんの原因となっている倒木などを確認する県、沖縄市などの職員ら＝沖縄市知花の比謝川
1019	1998/01/15	朝刊	地2	川風花形
1018	1998/01/15	朝刊	地2	川風花形
981	1998/01/14	夕刊	社1	40年前の卒業アルバムを開き、当時の話に花を咲かせる宮里朝景さん（左）と新垣安子さん（中央）、森千鶴子さん＝具志川市みどり町の宮里さん宅
980	1998/01/13	朝刊	社2	満開となった樹の下で、ひと足早く花見を楽しむ親子連れ＝11日、本部町・八重岳
916	1998/01/13	朝刊	地2	新しいタイプの施設として、『 徳之島町花徳の里 』＝徳之島町花徳
910	1998/01/13	朝刊	地2	時差もない沖縄演劇界の息吹を伝える人民文化第2号特別付録の「謝花昇傳」

23 件 (1/3ページ)

図 2-20 写真リスト画面



図 2 - 2 1 写真詳細画面

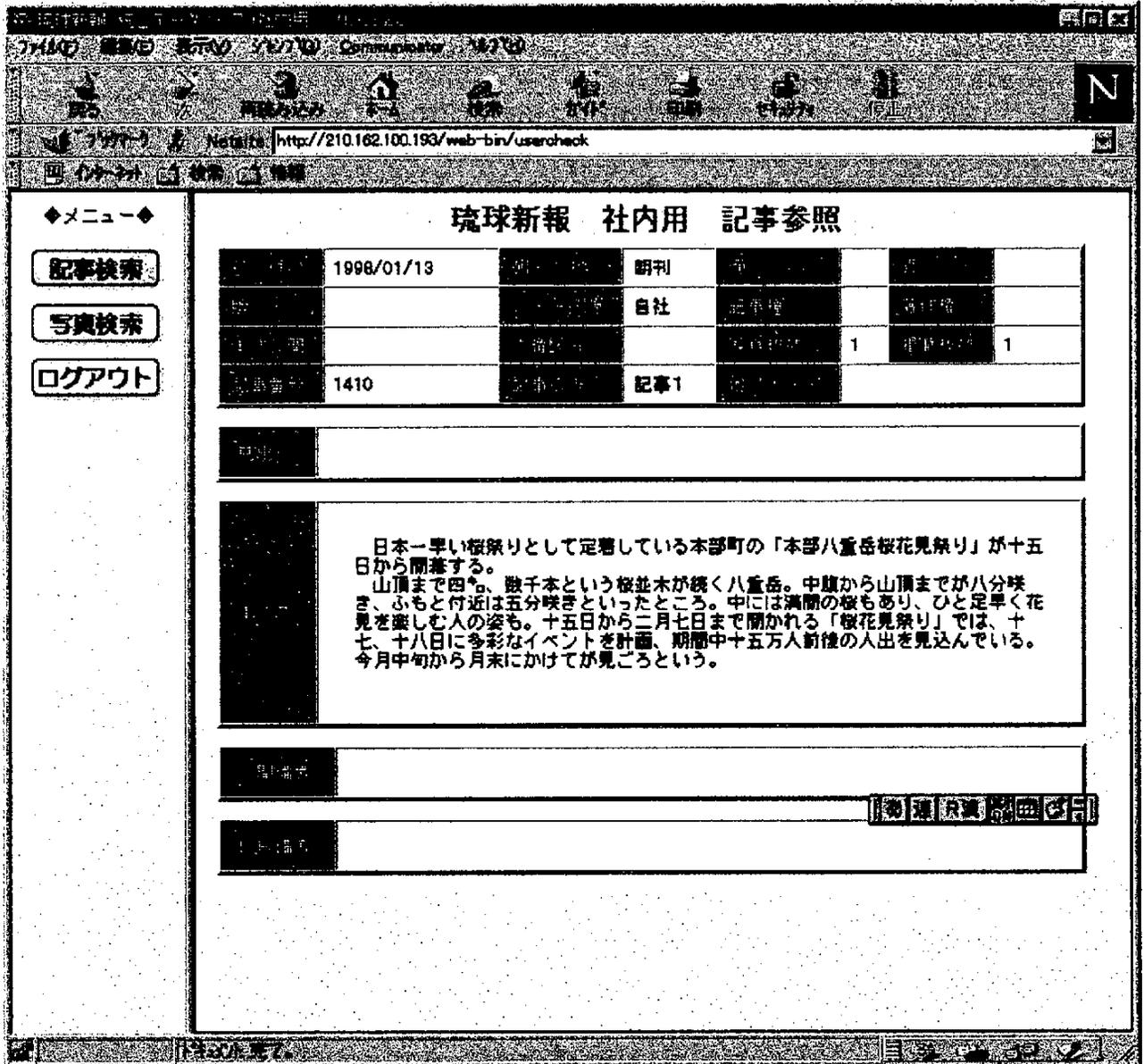


図 2 - 2 2 記事参照画面

社外向けの記事検索は、インターネットを用い社内と同様に日付、朝・夕刊、面、記事種の属性と、見出し、本文の全文自由語検索でほしい記事を検索。(図2-23) ヒットした記事はリスト表示される。(図2-24) リストの日付部分をクリックすると、記事詳細画面が表示される。(図2-25) 写真参照をクリックすると掲載写真が表示される。(図2-26)

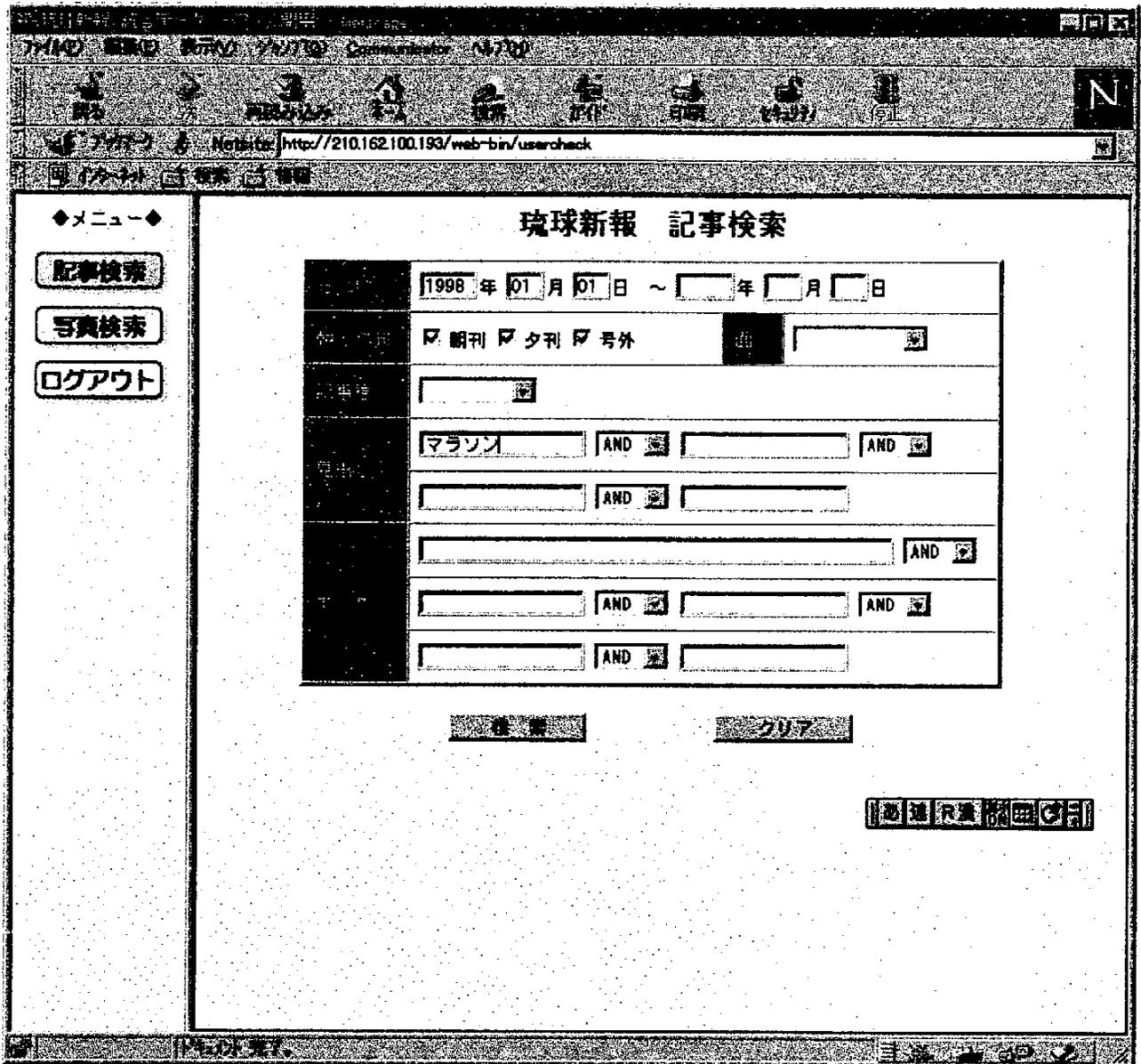


図2-23 記事検索画面 (社外公開)

Windows 95 / Netscape 4.0 / http://210.162.100.193/web-bin/usercheck

琉球新報 記事検索リスト

◆メニュー◆

[記事検索](#)

[写真検索](#)

[ログアウト](#)

日付	種別	記事内容	件数
1998/02/07	朝刊	医療スタッフの講習会を開催／おきなわマラソン	
1998/02/07	朝刊	本書に向け、大忙し／「大会の成功は任せて」／おきなわマラソン実行委員会事務局	
1998/01/21	朝刊	玉川園園生らグスク路清掃／視覚障害者マラソン応援	
1998/01/21	朝刊	小学生も壮年も健闘／金武町で新春マラソン大会	
1998/01/20	朝刊	校内マラソン炊き出しで応援／具志川商業PTA	
1998/01/19	朝刊	家族、仲間と楽しくラン／沿道の声援が励み／「完走証もらったよ」／海洋博トリム◆◆マラソン	1
1998/01/19	朝刊	宮古島喜いすマラソン／神戸の2人が1位（ ）2位（ ）／畑中さん／岸本さん／震災の樹にエール贈る	
1998/01/19	朝刊	随者の中思い思いに／海洋博公園全国トリムマラソン／■3.6%■／■10%■／■5%■／■ハーフ■／海洋博トリムマラソン上位入賞者／海洋博トリムマラソン上位入賞者	12
1998/01/18	朝刊	宮古島100%ウルトラマラソン／1位は神奈川の園家さん／島一周し感激のゴール	1
1998/01/17	夕刊	県内初「100%ウルトラマラソン」／時間気にせず宮古島一周／けさ上野村スタート	1

14 件 (1/2ページ)

法に CSV リスト出力

図 2 - 2 4 記事リスト画面

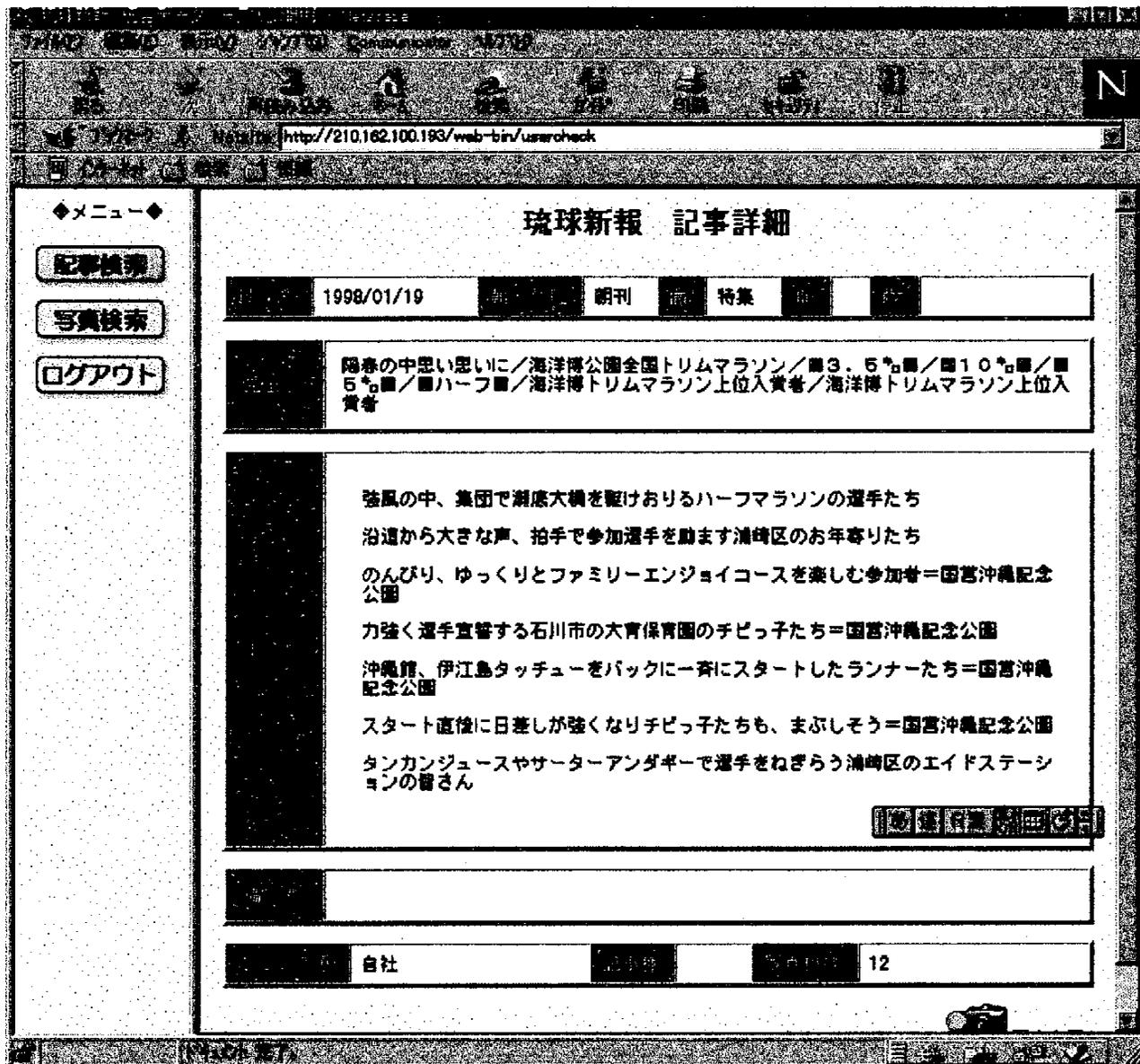


図 2 - 2 5 記事詳細画面



図 2-26 写真参照画面

(2) 社内利用

社内はLANを使いイントラネット環境で利用。執筆中の記者がエディター上からブラウザを立ち上げてログイン。すぐに過去の新聞記事を参照することができる。また、支社、支局はインターネットでアクセス。社内と同様の利用ができる。過去の写真が必要な場合、写真データベースで検索。実データはFTPでダウンロードし、紙面で再利用することができる。

(3) 一般公開

社外は会員制にし、半年の無料公開ののち有料提供する。

社外提供に際しては社内利用と違い、著作権や人権について留意した。

①著作権

新聞紙面に掲載された記事、写真をデータベースで公開する場合、自社記事以外は通信社（共同通信、時事通信）、投稿者、寄稿者などの了解を得なければ公開できない。

共同通信、時事通信記事については配信元を明記することで公開の許可を得ている。ただし、両社配信記事でもロイター、UPIなど外国通信社記事と、寄稿記事の公開はできない。

自社分の投稿、寄稿記事についてはあらかじめデータベースで公開の了解を得ている。もし、寄稿者からデータベースでの公開を拒否された場合は一般公開はしない。

これらを可能にするためにデータベースの一つひとつの記事、写真にニュースの配信元や公開の可否について、属性を付与している。

② 犯罪報道記事とプライバシーの保護

データベースは何百万件の記事の中から過去の記事を瞬時によみがえらせることができる。犯罪報道記事を基に容易に個人の前科情報を提供することができるシステムであるともいえる。すでに刑期を終え平穏な市民生活をおくっている人たちの過去をどこまで公開し、どこまで伏せなければならないか新たな問題となりつつある。（参考：松浦安康彦「新聞記事データベースとプライバシー問題、「前科情報」と個人データ保護について」朝日総研レポート1997年10月、128号）

データベース構築に際して社内では「データベースは過去の記事を簡単に検索できるので、すでに社会復帰を果たした人たちにとって読まれたくない記事もあるのではないか」との意見が出た。これに対し「一度紙面化し公開された記事をクローズにするのはどうか。すべての記事を公開してこそデータベース。過去の記事も図書館などで縮刷版ですでに読むことができる」などの議論があった。

前述の松浦氏の論文など参考に編集局内で論議した結果、以下の方向性を確認した。

- 1、事件・事故にまつわる個人情報、原則として一定期間後は公開データから除外する。
- 2、ただし a. 公開することが社会的、歴史的に意義が認められる場合 b. その者が選挙によって選出された公職にある者、または候補者 c. 社会一般の正当な関心の対象となる公的立場にある者、著名人については継続して公開する。
- 3、不起訴処分になったり、無罪判決が出た場合には、備考欄に続報注意や無罪判決や不起訴処分を扱った記事の掲載月日を参考情報として付け加える。

収録した記事によるプライバシー問題に対処するため、本データベースは一定期間後公開しない記事に対し、あらかじめ属性を付与するシステムにしている。

まだ収録を始めて日が浅いため、具体的な問題とはなっていないが、犯罪報道記事とプライバシー問題については社内で十分論議し、方針を固めることが課題となっている。

③訂正記事

原則として収録したデータは紙面掲載原文のままとしている。

収録記事の重大なミス、著しく人権を侵害、不利益を与えかねない間違いは、備考欄に訂正内容を明記する。

④外字の表記

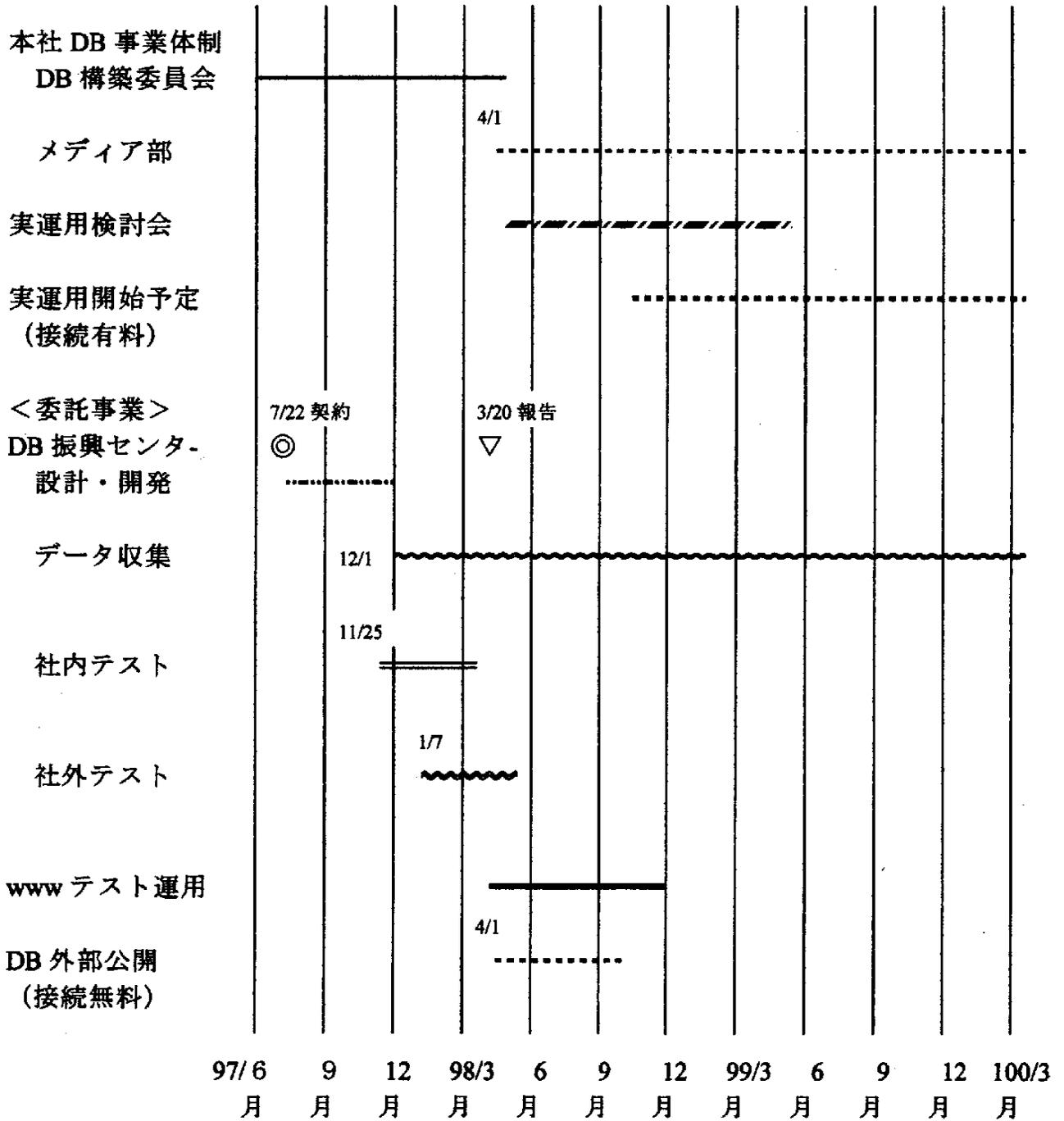
ブラウザで表示できない外字は、例えば中国や韓国・北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）などの地名人名などはカタカナ書きに変換し、備考欄で字解き表示している。

3. 実施体制

平成8年8月、社内に編集局次長を委員長に編集局、制作局、広告局、事業局、経営企画局の関係業務の担当で委員会をつくり、「データベース調査委員会」をつくり、構築の可能性を探り、社の役員会に対し、平成9年度中に新聞製作システム（CTS）の稼働に合わせて構築するように求め、社として構築を進めた。

「データベース構築委員会」（担当2人、委員長は論説副委員長が兼務、担当者は編集局ラテ部主任）を配置、メーカー等との調整に当たり、実際に稼働する平成10年4月には編集局内に「メディア部」を設置し、インターネットWWW、ラジオ、CATVなどの外部メディアへのニュース配信業務と併せてデータベースの運営も担当する。

4. スケジュール



5. 構築のあゆみ

データベース打ち合せ

日 時：7月29日（火） 午後1時30分～3時

場 所：編集局会議室

出席者：大森（元NTT）、中村（株式会社ディアイティ）
高嶺、国吉、伊元、鈴木、

議 題：データベース構築に詳しい大森氏、中村氏の両氏に新報DBについての使用ソフトやシステムについて意見を伺った。
両氏ともデータベースエンジンをオラクル全文検索エンジンをサビ
ーにすることなど、大筋で選択は間違っていないとの意見だった。
ただし、ファイアウォールと j a v a を使うことは要検討との意見。

データベース打ち合せ

日 時：8月1日（金） 午後3時30分から

場 所：編集局会議室

出席者：高嶺、国吉、伊元、鈴木

議 題：遅れている外注契約先決定の件
株式会社ケイアイにプログラムを外注することを確認
DB振興センターとの契約書について話し合った。

データベース打ち合せ

日 時：8月5日（火） 午後2時30分

場 所：編集局会議室

出席者：船迫（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元、鈴木、具志堅

議 題：株式会社ケイアイと契約を前提にシステム構築の会議。
発注書を作成し契約を行った。
データベース構築内容についての仕様をまとめた。

データベース打ち合せ

日 時：8月6日（水） 午前10時

場 所：編集局会議室

出席者：船迫（株式会社ケイアイ）
中島、知念（日本電気）
高嶺、伊元、鈴木

議 題：DB構築に向け、NECと初の会議

現在、日本電気が構築中のCTS（琉球新報社新聞制作システム）よりデータを自動取得するための仕様打ち合せを行った。

データベース打ち合せ

日 時：8月12日（火）午後1時20分
場 所：6階総務小会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元、国吉、鈴木

議 題：「新報DBの要件」について伊元がケイアイに説明

データベース打ち合せ

日 時：8月13日（水）午前10時
場 所：編集会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
中島、知念、大西（日本電気）
出席者：高嶺、伊元、国吉、鈴木

議 題：NECからCTSのデータについて説明

データベース打ち合せ

日 時：8月28日（木）午後3時
場 所：編集局会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
古田（理経）
高嶺、伊元、鈴木

議 題：DBのテーブルなどの詳細検討

データベース打ち合せ

日 時：8月29日（金）午前10時
場 所：編集会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
古田（理経）
中島、知念、松沢（日本電気）
高嶺、伊元、国吉、鈴木

議 題：NECが、CTSからDB側へのデータ送出について提示

データベース打ち合せ

日 時：9月30日（火）午後2時
場 所：編集局会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
古田、木村（理経）
高嶺、伊元、国吉、鈴木、具志堅

議 題：DBテーブルについて最終的に詰めた

データベース打ち合せ

日 時：10月1日（水）午前10時
場 所：編集局会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
古田（理経）
中島、知念、松沢（日本電気）
高嶺、伊元、国吉、鈴木

議 題：NECのCTS側とDB側のデータインターフェース確認

データベース現地調整開始

日 時：11月25日（火）
内 容：編集会議室に作業室確保

データベース打ち合せ

日 時：11月28日（金）
場 所：6階会議室
出席者：長住（株式会社ケイアイ）
古田、木村（理経）
中島、竹内、松沢（日本電気）
高嶺、伊元、国吉、鈴木

議 題：NECのCTS側とDB側のデータインターフェース確認
データベース用ドメイン及びIPアドレス確認

データベース現地調整報告

日 時：12月2日（火）
内 容：CTS側とDB側を接続し、12月1日朝刊データを初取込

データベース打ち合せ

日 時：12月3日（水）午前10時
場 所：編集局会議室

出席者：房前（リュウデン）
幸田（OCC）
伊元、国吉

議 題：URLとDNSサーバについてOCCとOCN間の調整

データベース打ち合せ

日 時：12月8日（月）午後3時
場 所：編集局会議室
出席者：長住（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元

議 題：CTS側とDB側の外字コード処理の確認

データベース打ち合せ

日 時：12月9日（火）午前11時
場 所：編集局会議室
出席者：長住（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元、国吉

議 題：仮見出しのきまりごとを検討

現地調整報告

日 時：12月10日（水）
内 容：房前（リュウデン）氏よりOCN回線は1月7日接続と決定

データベース打ち合せ

日 時：12月16日（火）午後3時
場 所：編集局会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元、国吉

議 題：現在までの現地調整内容報告と今後のスケジュール

データベースデモ

日 時：12月17日（水）午前11時
場 所：編集局会議室
出席者：船迫、長住（株式会社ケイアイ）
高嶺、伊元、国吉、山根専務、三木局長、その他

内 容：データベースの中間デモンストレーションを実施

現地調整報告

日 時：1月1日（木）

内 容：一般提供のための記事と画像データ蓄積開始

現地調整報告

日 時：1月7日（水）

内 容：OCN専用回線接続

現地調整報告

日 時：1月16日（金）

内 容：WebサーバとOCN接続

データベース打ち合せ

日 時：1月19日（月）午後1時

場 所：編集局会議室

出席者：長住（株式会社ケイアイ）

古田（理経）

高嶺、伊元、国吉

議 題：今後のスケジュールとデータベースWeb環境説明

データベース打ち合せ

日 時：1月21日（水）午後3時

場 所：編集局会議室

出席者：長住（株式会社ケイアイ）

中島、宮坂、堤（NEC）

高嶺、伊元、国吉

議 題：CTSからのデータ不具合について検討

データベース打ち合せ

日 時：1月27日（火）午後4時

場 所：編集局会議室

出席者：船迫（株式会社ケイアイ）

高嶺、伊元、国吉

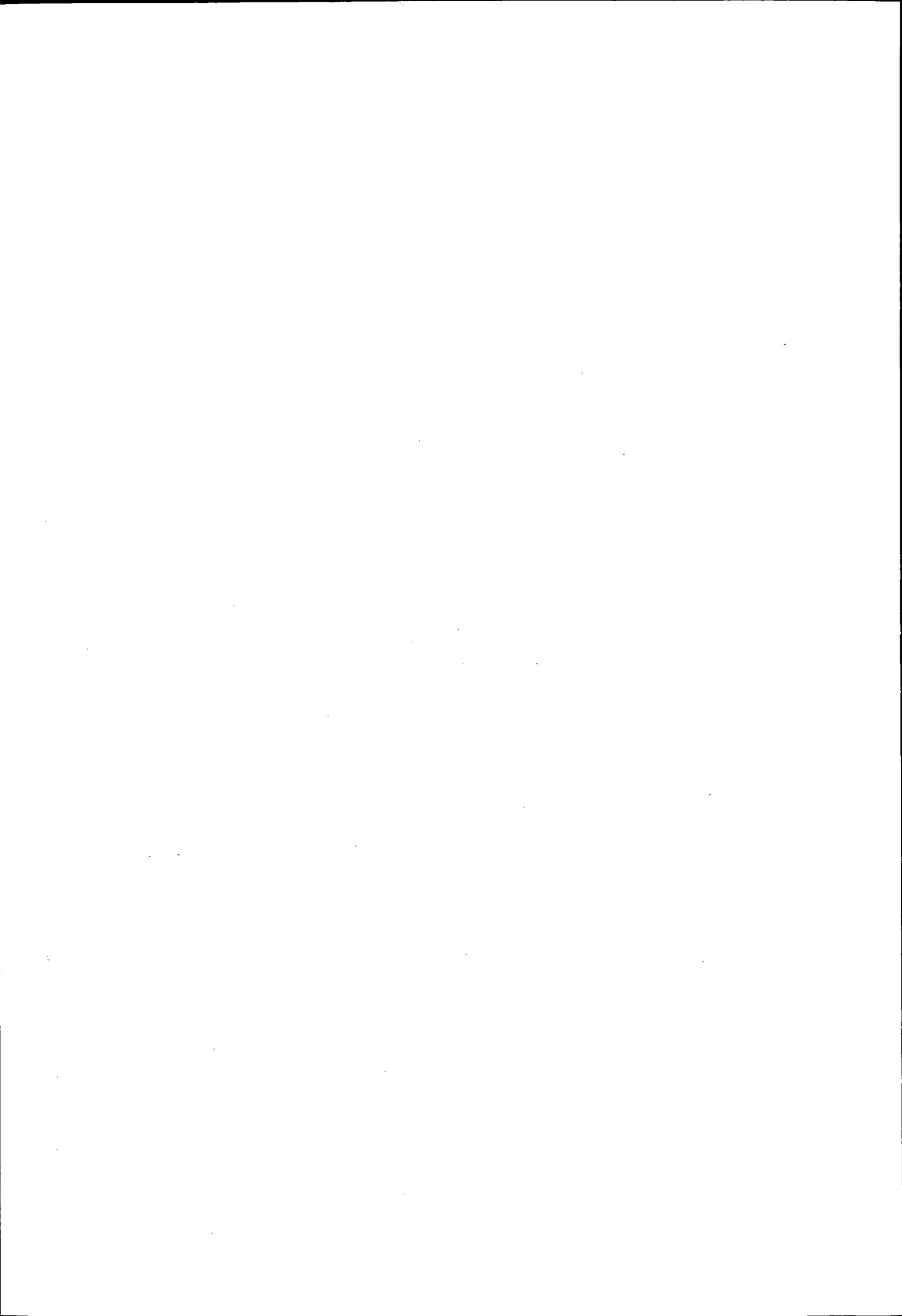
議 題：進行状況と今後の保守契約について

社内運用開始

日 時：2月2日（月）

内 容：編集局内で勉強会を実施し運用開始

以上



———— 禁無断転載 ————

平成10年 3 月発行

発行 財団法人 データベース振興センター
東京都港区新橋二丁目13番8号
新橋東和ビル5階
TEL 03-3508-2430

委託先 琉球新報社
沖縄県那覇市泉崎1-10-3
TEL 098-865-5111

印刷所 株式会社 新報出版
沖縄県那覇市港町2-16-1
TEL 098-866-0741

